

そじゃ



中四国最大級
そうじゃ吉備路マラソン
いよいよスタート

CONTENTS

- そうじゃ吉備路マラソン 2
- 大規模災害被災地支援条例 4
- 確定申告 6
- ヘルシーメニュー 19
- 輝いている人 21
- フォトニュース 22

2014
平成26年
No.107

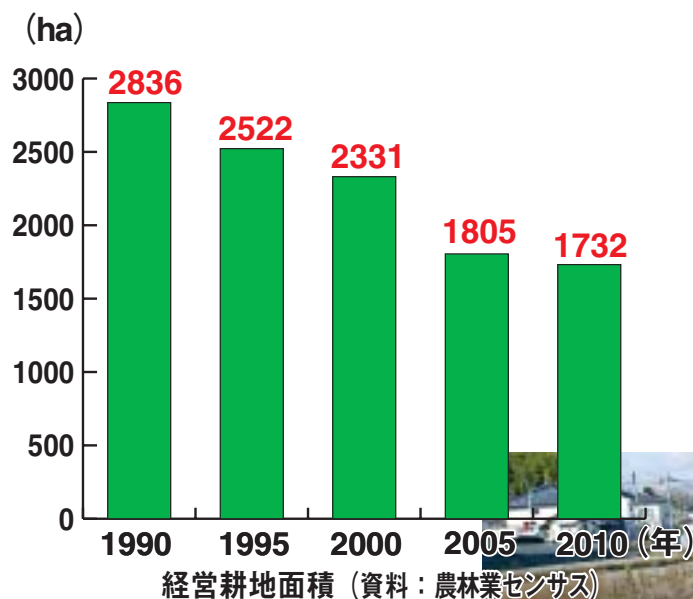
2



平成26年2月号 No. 107
平成26年2月1日発行

発行／総社市役所 編集／企画課広報広聴係
電話0866 (92) 8214
Eメール kikkaku@city.soja.okayama.jp

〒719-1192 岡山県総社市中央一丁目1番1号
広報紙の配布 電話0866 (92) 8218 (総務課) FAX 0866 (93) 9479
総社市役所のホームページ http://www.city.soja.okayama.jp/ 総社市携帯サイト



耕作放棄地は定期的に草刈りや耕うんすることで、景観の保全や雑草の成長を防ぐことができる。農地の所有者で管理できず、「農地が荒れている」と周りに迷惑をかけるからと引き受け手を捜すケースもある



数字で見る
そうじゃ

経営耕地面積 耕作放棄地を再生しよう

市内の経営耕地面積（農家が経営する耕地の面積）が年々減少。耕作者の高齢化や後継ぎ不在による労働力不足で、耕作を放棄せざるを得ない農家が増えたことが要因の一つと考えられます。

耕作を放棄した農地を放置しておくと、病虫害や雑草の発生、鳥獣害の拡大により、周辺農地へ悪影響を及ぼします。また、景観の悪化や産業廃棄物の不法投棄なども懸念されます。

そこで、耕作放棄地の解消・再生利用を推進しようと、「総社市耕作放棄地対策協議会」が平成21年2月に発足。草刈り作業などに必要な農機具を無償で貸し出したり、国や県が実施する耕作放棄地再生利用への支援制度

の受け皿になったりしています。

国の支援制度には、荒廃した耕作放棄地を引き受けて作物の生産を再開する農業者や農業法人などが再生作業（刈払い、抜根、耕うん、整地など）と土づくり（肥料、有機質資材の投入など）を一体的に行う場合に、一定の要件を満たすものについては、その作業の経費を補助する制度があります。このほかにも、鳥獣被害防止策として行う再生作業に対する県の支援制度などもあります。

耕作放棄地を再生して耕作したいという人や農業法人は、これらの支援制度をご活用いただき、耕作放棄地を生き返らせ、地域の大変な資源である農地の有効活用を図ってください。

出発！！
会場へは公共交通機関で！
そうじゃ吉備路マラソン号